110
行けばわかるだろう・・・・・・・・・・484

## 行けばわかるだろう

「坊ちゃん、暑かったでしょ。」と言って、
奥さんは僕に冷たいバニラのアイスクリームを
ごちそうしてくれた。

しばらく、待った。

「坊ちゃん、どうぞ」とか「はい、坊ちゃん」とか
僕を「坊ちゃん」呼ばわりして、僕は大変気持ちが悪かった。

そう言えば、お父ちゃんは、昔は、
小さい時は、「お坊ちゃん」と呼ばれていたんだ。
お父ちゃんの実家は、大阪の枚方の酒造りで、
使用人をいっぱい使っていたし、
畑もたんぼもいっぱいある家だったようだ。

もう、そう言う話は昔のことで、
今は、うちのお父ちゃんは、
身分も地位も関係ない芸術家だ。

「おお、久し振り。」と、先生が僕を呼んだ。
「大きくなったねえ。」という先生の言葉に、
僕は、笑みとお辞儀で答えた。

一本虫歯を、小学校五年の夏に、抜いてもらっている。
五年ぶりだ。

先生は、時間をかけて、大変、丁寧に僕の歯を見てくれた。
先生は、お金を取らなんだ。



萩原良昭